

第5回犬山市歴史まちづくり協議会議事録

開催日時：平成25年3月28日（木）午前10時15分～

開催場所：犬山市役所202会議室

出席者：敬称略

区分	機関・団体等	氏名
市議会議員	犬山市市議会議員	柴田 浩幸
〃	〃	久世 貴裕
学識経験者	北海道大学大学院工学研究院 教授	越澤 明【会長】
〃	犬山市文化財保護審議会 委員	長谷川 良夫
関係施設管理者	財団法人犬山城白帝文庫 理事長	成瀬 淳子
〃	株式会社名鉄犬山ホテル 総務部長	間瀬 道男
〃	愛知県一宮建設事務所長	福井 恒司
県職員	愛知県教育委員会生涯学習課 文化財保護室	八木 亨 (代理：牧 謙治)
〃	愛知県建設部公園緑地課長	赤堀 敏彦 (代理：小島久直)
市職員	都市整備部長	河村 清 (代理：小川清美)
〃	教育部長	大西 正則
〃	経済環境部長	尾関 敏伸 (代理：一柳佳誉)
オブザーバー	中部地方整備局 計画管理課長	堀口 岳史

出席者：(事務局) 歴史まちづくり課 中村、安藤、井出、川島、山田

議事内容

- あいさつ
- 委嘱状伝達
- 協議・報告事項
 - 犬山市歴史まちづくり協議会設置要綱の一部改正について
 - 歴史まちづくりの状況について
 - 歴史まちづくりに関する事業の評価について
 - 犬山市歴史的風致維持向上計画の変更について
 - 犬山市歴史まちづくり協議会専門部会の開催について
- その他

■ 犬山市歴史まちづくり協議会設置要綱の一部改正について

事務局から、犬山市歴史まちづくり協議会設置要綱の第3条「組織」に関する条文について、今後の協議会の議題によっては組織の範囲を拡大することを想定した改正を行ったことを報告。

⇒ 委員より質問及び意見なし

■ 歴史まちづくりの状況について

事務局から犬山市の歴史まちづくり推進に関する平成24年度までの実績（歴史まちづくり協議会の開催及び中部歴史まちづくりサミット参加等）について、全国の歴史的風致維持向上計画認定状況と併せて報告。

⇒ 委員より質問及び意見なし

■ 歴史まちづくりに関する事業の評価について

事務局から犬山市歴史的風致維持向上計画に記載のある各事業計画の進捗状況について、進行管理・評価シートを基に説明。

委員：国登録有形文化財等助成事業で修理を行ったそれぞれの建造物について、今後、店舗として利用するなど活用方法はどのようなものか。

事務局：加藤家住宅については観光客の休憩所や観光案内所として活用する。平成25年の夏か秋のキャンペーンに併せて開館予定である。岩田家は花屋として営業中である。

■ 犬山市歴史的風致維持向上計画の変更について

事務局から、登録有形文化財の新規登録及び歴史的風致形成建造物の新規指定に伴う変更について説明。また、2月1日～3月1日までの1ヶ月間実施した同計画変更案のパブリックコメントの結果を併せて報告。

委員：今回新たに登録有形文化財として登録された大島家茶室と併せて、成田山に寄贈された大島家書院も調査中と聞いているが、他にも調査中の建造物があるのか。

事務局：市が報告を受けている中には、現在調査中の物件はない。

委員：市にはまだ報告していないが、調査を行った建造物はある。今後登録するべきと思われる物件も3件から4件ある。町の総代を務めていた大島家は商人でありながら家老級のお屋敷を構えていた。その屋敷の中でメインとなる書院は江戸末期に建てられた非常に重要な建物で、全国的に見ても珍しいと思われる。

委員：史料館のリニューアルにより城下町全体の様子がよく分かるようになったが、政治経済など、町の運営についての展示スペースが無い。今後の調査により城下町の様子についても新たな発見があるだろう。5年後くらいに部分的にリニューアルを行うとよいのでは。

委員：伝統的建造物の保存について、犬山市は行政と民間の関係が良好で、「民間による調査」と「行政による登録手続」という体制の構築により、伝統的な町並みの保存が進んでいる。県内の先進事例として他市町の手本となっているため、今後も続けて欲しい。

委員：歴史まちづくり協議会で情報共有することが、歴史的建造物の解体防止にもつながると思われる。

■ 犬山市歴史まちづくり協議会専門部会の開催について

事務局から、犬山城築城 500 年に向けた整備計画を犬山固有の歴史と伝統を反映させたものにするため、専門的な見地から指導及び助言を得ることを目的に犬山市歴史まちづくり協議会専門部会を設置した。現在、明治 9 年作成の古券図及び総構え内と考えられる地域についての閉鎖登記簿等を基に、土地の変遷について調査を進めていることを説明。

委員：現在、固定資産税のデータと登記簿謄本を精査して、明治以降の土地利用状況の変化について調査している。江戸時代の様子を発掘調査により確認することは、大部分が民有地である現状と費用の面から到底無理である。そのため、過去の城下町の姿について、明治の古券図と現状との突き合わせにより確認作業しているところである。中でも一番の問題点は、掘り割りが埋め立て等により改変されていることだが、大手門一帯については、地番の確定によりかなり状況の把握が進んだ。

犬山は幸い戦災に遭っていないため、過去の町割と現代的なデータとの突き合わせが行えるが、このような城下町は全国でも貴重である。現在、大手門の位置には福祉会館が建っているが、将来、現在作成中のこの資料を利用して、効率的に発掘調査を行えるだろう。また、歴史まちづくり課事業のみならず、城下町における民有地内の建て替え時や城下における各種整備工事の際に、城下町を守りながら整備するための基礎データとして活用することができる。

委員：開発等で土地割りが変わってしまう中、このような調査ができるということは非常に貴重な。福祉会館の解体時等にこの資料を活用して、空堀や枡形の位置が確認できると良い。城下町の当時の町割の残存状況が分かれば、歴史的建造物と併せて犬山城下町の価値がより上がると思われる。

委員：資料として提供された古券図には個人情報にあたるものが含まれているので、内部資料とすべきだ。

⇒ 内部資料とすることに。

■ その他

委員：犬山市は早い段階で歴史的風致維持向上計画の認定を受けているため、参考となる他市町の参考事例が年々増えてきていると思われる。中部歴史まちづくりサミット等により他市町と情報共有できると良い。

委員：犬山市は行政と民間との良好な関係により歴史的な建造物の保護施策が進んでいるが、設計監理者は少ない。愛知県全体でいえることだが、今後は技術者養成の環境づくりが必要。

委員：人材育成のため、犬山の子どもに我が町のことについての出前授業をお願いしたい。

委員：山田家住宅、大島家茶室、小島家庭園等、犬山にはまだ掘り起こされていない文化財があると思う。このような文化財の掘り起こしにより、民間と行政の関係がより密接になり、結果的に歴史的風致の維持向上につながるのではないかと。今後も頻繁に情報交換や情報共有ができればよい。

- 委員：福祉会館の位置にあった大手門の整備については、2段階で行う方が良いのではないかと。現状では発掘調査もできないため、まず景観阻害物件として福祉会館を解体した際に調査を行う。その後、調査結果により市民の意見や文化庁の指導を元に、具体的な整備方法の検討を行うという方法ではどうか。
- 委員：隣の各務原市は江戸時代には半分が尾張領であったという縁の深い土地である。各務原市は鶉沼宿の再生で注目されており、全国から行政視察が増えている。犬山市も各務原市と連携をとってまちづくりを進めたらどうか。
- 委員：中部歴史まちづくりサミットの参加都市は東海北陸自動車道沿いにあり、重要な観光ルートにもなっている。これらの都市は広域的な視点で連携をとる必要がある。例えば、伝統的建造物修理等の技術者についても、一つの県で確保するのは無理だろう。中部地方全体で考え、地域内で継続的に修理が実施できれば、後継者育成の環境形成につながると思う。中部地方には歴史的都市が密集しているので、犬山市も中核として頑張りたい。